

授業改善推進プラン【理科】

谷戸第二小学校

1 調査結果の分析

<関心・意欲・態度>

理科の学習に対する関心・意欲は高く、理科の学習を楽しんでいる児童が多い。

<科学的な思考・表現>

様々な事象を総合的に関係付けて考えたり、表現したりする事が苦手である児童が多い。

<技能>

器具の使い方などは、定着している児童が多い。

<知識・理解>

比較的知識は定着している。しかし、電気と回路については、「直列つなぎ」と「並列つなぎ」の性質の違いを理解している児童が少なかった。

<解決する力>

学習した現象を実生活に応用して推論することが苦手である。



2 授業改善の方策

・関心・意欲や知的好奇心の向上を図る。

課題設定の際、児童の身近である教材・教具の工夫を図るようにする。また、学習したことが実際の生活とどのように関連しているのかを考える場面を設け、**生活とのつながりや社会とのつながりを感じられるようにする。**

・科学的な思考・表現を育成するための学習の改善・充実を図る。

全ての単元において、**実験結果を整理し考察する活動の重視を図る。**児童が実験結果を事実即して整理し、自分の考えをもち、自分の言葉で表現する活動を大切にする。また、自分の考えについて、児童同士で交流する場を設定すると、自分の予想の立て方や、その妥当性について振り返ることが出来ると共に、友達の根拠のある予想などの良いところを学ぶこともできる。

・実験観察の技能を定着させるための指導の充実を図る。

実験器具の操作について系統的に教えていくようにする。例えば、顕微鏡は5年生「メダカの誕生」の微生物の観察で初めて扱うが、倍率や視野の調整方法などは、6年生「大地のつくり」の火山灰の観察でも指導する。**操作が難しい実験器具でも、繰り返し教えていくこと**で技能が身に付いていくと考えられる。

・自然事象についての知識・理解の定着を図る。

1時間の授業でおさえたい用語に関しては、授業のまとめ時に全体で確認をする。また、用語を活用する機会を作り、確実に定着させるようにする。

・意図の背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力の定着を図る。

学習した現象を身の回りの生活に応用して推論することができるように、学習した内容を実際の生活と関連させ、解決への糸口とさせる。



3 活用につながる指導

・学習内容の習得状況を確認し、理解できていないところをより具体的な操作を行うことによって習得させていく。その際、日常生活と関連付けたり、類似した現象の観察や実験を行ったり、既習内容を活用させたりすることを繰り返し体験させる。

・学習指導要領の内容を十分理解した児童には、単元の学習内容に関連した疑問やもっと知りたいことなど自ら課題を設定し、それについて観察・実験や調べ学習を行わせ、より学習を深められるようにする。